

## 村田 光成 道政報告

Vol. 6  
帯広版

北海道議会議員

むらた 光成 みつしげ

帯広の豊かな潜在力で  
北海道の輝く未来への扉を開く!

むらた みつしげ  
村田光成  
プロフィール

昭和42年10月10日、帯広市生まれ。帯広農業  
高校、東洋大学経済学部卒。帯広市議会議員4  
期を経て、平成31年北海道議会議員に初当選。  
道議会議会運営委員会理事、同保健福祉常任委  
員会理事、同食と観光対策特別委員会理事。

村田光成  
事務所

〒080-2464 帯広市西24条北1丁目3番地31  
TEL:0155-67-1155  
FAX:0155-67-1567

ホームページ



## ごあいさつ

私の議員活動に対し、日頃よりご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

早いもので、皆さまの力強い後押しを受け道議会に送り出していただいてから、まもなく4年が過ぎようとしています。この間、新型コロナウイルスの度重なる感染拡大、ロシアによるウクライナ侵攻など緊迫する国際情勢を背景にしたエネルギーや原材料価格をはじめさまざまな物価の高騰といった難局が相次いでいますが、これを超え社会経済の再生に向けた道筋を確かなものとするために奔走しています。

同時に、山積する道政課題への取り組みも待ったなしです。急速に進む人口減少と少子高齢化の影響を最小限に抑えつつ、北海道の未来を切り拓く鍵となる「デジタル化」や「ゼロカーボン北海道」を推進し、農林水産業、食や観光をはじめ本道を支えるあらゆる産業への支援を強化

するなど、課題解決に向けて全力を挙げています。

こうした中、帯広・十勝の実力を全国に知らしめる出来事がありました。本年10月に鹿児島県で開催された「和牛のオリンピック」こと「全国和牛能力共進会」において、わが十勝勢が2部門で北海道代表として過去最高の3位に入る好成績を収めました。次回の「和牛のオリンピック」は、5年後に北海道で開催されます。そこで十勝勢が栄冠を勝ち取るとともに、畜産をはじめとするあらゆる分野で帯広・十勝が北海道の未来をリードするよう、私も力の限り取り組んでまいります。より一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

北海道議会議員 村田 光成



道議会において、村田光成は令和4年も一般質問や所属する委員会で質問に立ち、道政課題の解決に向けて道の取り組みをただし、鈴木直道知事らと論戦を交わしています。北海道は日本の食料基地として、また政府が推進する脱炭素分野でもけん引役として期待されています。その屋台骨を支える帯広・十勝の課題は、北海道全体の課題に直結します。帯広から北海道の新時代を切り拓くため、引き続き道議会で活発な議論を展開してまいります。

第1回  
定例道議会  
一般質問  
(3月9日)

## 北海道フードコンプレックス 国際戦略総合特区について

**村田議員** フード特区は「帯広・十勝地区」のほか、「札幌・江別地区」「函館地区」で事業展開され、2期目の計画期間が令和4年3月末で終了する。私の地元、帯広・十勝では「農業用貨物自動車の車検期間の伸長」をはじめ、牛肉の処理加工施設整備、道独自の取り組みである食品機能性表示(ヘルシーDo)など、大きな成果を上げている。特区が関与した食品輸出額や企業との連携プロジェクト数など、これまでの取り組みと成果について伺う。また、計画期間終了を見据え、あらゆる効果を道内外に波及する事例を生み出すことが重要。フード特区機構が担った各種機能や支援が継承されることで、本道の食産業がさらに発展するものとする。機構の事業継承の受け皿はどのようなものになるのか。

**食産業振興監** 特区が関与した食品輸出額及び輸入代替額は、令和2年度までの累計で約2371億円、連携プロジェクトは22件を展開し、ヘルシーDoの認定商品数は128件、累計売上額は約246億円にのぼり、国の評価・調査検討会でも高い評価を受け、道としても道内食関連産業の振興に大きく寄与したと受け止めている。また、フード特区機構の解散後は、ヘルシーDoをはじめとする食品の高付加価値化や輸出拡大に向けた人材育成などを道で進めるほか、北海道経済連合会や道総研、ノーステック財団などの関係機関において、機構が培ったノウハウを共有し、企業支援を行う。特区終了後も、各機関と連携して本道食産業の振興に積極的に取り組んでいく。



第2回  
定例道議会  
一般質問  
(6月21日)

## 動物愛護管理行政について

**村田議員** 「動物愛護管理センター」開設に向けた実証事業として、道央と道東に犬猫の保護拠点を設けて運営上の課題を探り、酪農学園大学と十勝管内幕別町の動物愛護団体に委託するとの報道があった。道は4カ所にセンターを開設する方針で、道央と道東は令和5年度中、道北と道南は早ければ同6年度中を予定しているとされる。実証事業の終了後、センター開設までのスケジュールについて伺う。また、道北と道南では今後どのように取り組む考

えるのか。

**鈴木知事** 獣医師会や獣医系大学、愛護団体などと運用時の連携方法に関する協議を進め、適切に機能することが確認できれば、具体的な検討をさらに進め、道央と道東で令和5年度の運用開始を目指す。道北、道南でも課題の抽出・検証や関係機関と協議し、可能な限り早期の運用開始に向けて取り組みを進める。

### その他の 一般質問項目

#### ◆第1回定例会

・若年層における献血の推進 ・森林環境譲与税の活用 ・通学路の安全確保 ・児童虐待

#### ◆第2回定例会

・日高山脈襟裳国定公園 ・国立公園満喫プロジェクト ・魅力あるホッカイドウ競馬

食と観光  
対策特別  
委員会  
(6月30日)

## GM条例改正について



### 道民の不安解消に向けた取り組み

**村田議員** GM条例(遺伝子組み換え作物の栽培等による交雑等の防止に関する条例)改正案で対象外となるGM作物は、現時点でバラ、カーネーション、コチョウラン。遺伝子を扱う手法が日々進歩している中で、想定外の「未知なるGM作物」が作り出され、それが生態系や人の健康などに影響を与える可能性は否定できない。道民の懸念や不安にどのように対応する考えなのか。

**農政部** 改正後に条例の対象外となるGM作物についても、生態系や人の健康への影響はないものとする。一方で、現時点では想定し得ない、その他のGM作物が作り出されカルタヘナ法(遺伝子組み換え作物に関する国際的な枠組み)の承認を受ける可能性も残るため、道として隔離ほ場での栽培はもとより、国内のGM作物の開発や審査状況を注視しつつ、新たな動きが見込まれる場合は速やかに有識者や専門家の議論を踏まえ、必要に応じて条例見直しを検討するなど、情勢の変化に的確に対応することで道民の懸念や不安に対応する。

### GM条例の役割

**村田議員** GM条例はGM食品に不安を持つ道民に大変評価の高い条例。今回の改正で規制対象を食用または飼



料用等の栽培に限定し、花などが除外されるため、道内で除外されたGM作物が栽培されることが想定される。道として本条例が果たしてきた役割をどのように評価し、今回の改正後、この条例がどのような役割を果たしていくのか伺う。

**農政部** この条例は消費者から信頼される道産食品の生産と供給に寄与してきた。遺伝子を利用した技術の進展により、GMコチョウランが今後、鉢植えで流通する見込みとなり、一般家庭でも条例で定める手続きを経ずに栽培される可能性があることを踏まえ、道では条例で規制する対象範囲を食用及び飼料用などに整理し、「食の安全・安心」を確保する条例であることを明確にする。改正を通じてGM作物に関する栽培ルールを徹底し、将来にわたり条例の実効性を担保することで、わが国最大の食料供給基地である本道の食のブランドづくりにつなげていく。

### その他の主な 質問項目

#### ◆保健福祉委員会

- ・小児・AYA世代のがん患者の妊孕性(にんようせい)温存療法 ・献血の状況
- ・新型コロナウイルス対策(陽性者登録センター、検査キット配布状況など)
- ・新型コロナワクチン接種の取り組み

#### ◆食と観光対策特別委員会

- ・どうみん割事業等
- ・知床観光と観光船の安全対策
- ・高病原性鳥インフルエンザへの対応

#### ◆予算特別委員会

- ・住宅・建築物に関するゼロカーボンの取り組み
- ・北海道のグローバル戦略 ・ドローンの利活用
- ・道のデジタル人材の育成・確保

## 道議会自民党として団体政策懇談会を開催



道議会自民党・道民会議が毎年開催する「団体政策懇談会」が、10月12～14日の3日間にわたり開催され、私も参加しました。農業や林業をはじめとする一次産業、経済、医療、教育など幅広い業界の友好団体から、喫緊の課題であるコロナ禍からの再生や物価高騰対策などさまざまな要望を伺いました。これとは別に、道11区支部では7月下旬～8月中旬、地域政策懇談会を開催し、十勝管内の11市町村と2団体をまわり要望を伺いました。私はいずれの懇談会にも出席し、現場の皆さまの切実な声に向き合いました。

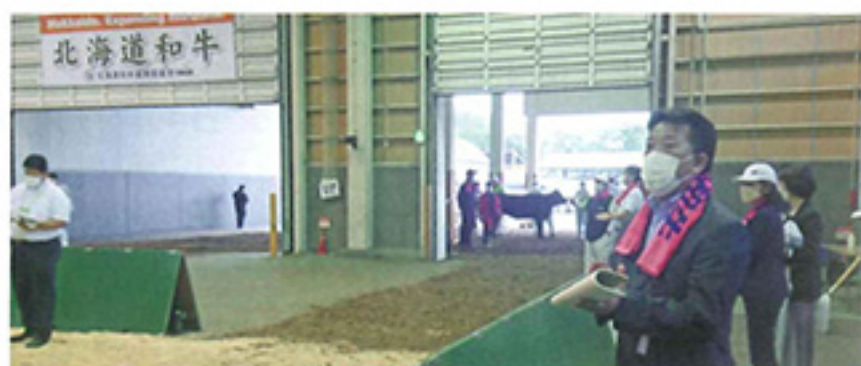
政府は10月末に総額約39兆円にのぼる総合経済対策を閣議決定し、裏付けとなる補正予算の一日も早い成立に向けて取り組んでいます。こうした予算を北海道の課題解決に役立て、さらなる補正予算や来年度予算に反映させるため、引き続き全力を尽くしてまいります。

# 「和牛のオリンピック」で北海道代表が過去最高成績!

## 十勝勢が躍進の立役者に

「和牛のオリンピック」と呼ばれ、5年に1度開催される国内最大の和牛の品評会「全国和牛能力共進会」が鹿児島県で10月に開催され、北海道代表として参加した十勝勢は9部門すべてに出場し、このうち8部門で優等賞を獲得。さらに、「繁殖雌牛群」と「高等登録群」の部門では過去最高の優等賞3席(3位)に輝きました。北海道代表として過去最高の成績です。

これもひとえに生産者の皆さまのご尽力の賜物です。私は道代表を決めるため8月に音更町で開かれた最終選抜会に参加し、生産者の皆さまが手塩にかけて育てた和牛の素晴らしさを目の当たりにしているだけに、全国大会での素晴らしい成績に喜びもひとしおです。次の大会は5年後の令和9(2027)年に北海道で開催されます。十勝の和牛が北海道初の栄冠に輝くために、私も全力を尽くしてまいります。



第12回全国和牛能力共進会北海道最終選抜会場を訪問(音更)



鹿児島県で開かれた「和牛オリンピック」



## 和牛全国大会へ最終選考 音更



和牛全共に向け道代表を選んだ最終選抜会(10日午前10時50分ごろ)

十勝毎日新聞に掲載された記事

【音更】10月に鹿児島県で開かれる第12回全国和牛能力共進会(公益社団法人全国和牛登録協会主催)の道代表を決める最終選抜会が10日、町内のアグリアリーナで開かれた。種牛の部に十勝など道内の130頭が出品。午前中の種牛の部の第5、4、6区で管内の13頭が全国への切符をつかんだ。和牛全共は、5年に1度開かれる「和牛のオリンピック」と呼ばれており、月齢などの条件別に種牛の部が1、6区、肉牛の部が6、8区に分かれ、和牛の改良の成果や肉質などを競い合うもの。最終選抜会には種牛の部に74頭が出品され、1頭ずつ審査が行われた。(結果は後日掲載) (完) 雅美



第12回全国和牛能力共進会北海道最終選抜会 開会式(音更)

## 子供たちの健全な成長を願い 父子チャレンジアカデミーin帯広でごあいさつ

子供と保護者が一緒に身体を動かすことを通じて、子供たちの心身の健やかな成長を目指すイベント「父子チャレンジアカデミーin帯広」(主催:NPO法人幼児教育従事者研究開発機構)が8月27日、帯広の森体育館で開かれ、私は開会式であいさつに立ちました。参加した親子77組は、オリンピック3大会に出場した元陸上競技選手の為末大さんの指導でかけっこを楽しんだり、管理栄養士の方から食育について学んだりしました。私も引き続き、子供たちの健やかな成長のために精一杯取り組んでまいります。



予算特別委員会



保健福祉常任委員会



帯広市をはじめ十勝管内各町村に出向き行われた「地域政策懇談会」



食と観光対策特別委員会で長崎県諫早市の「愛菜ファーム」を視察